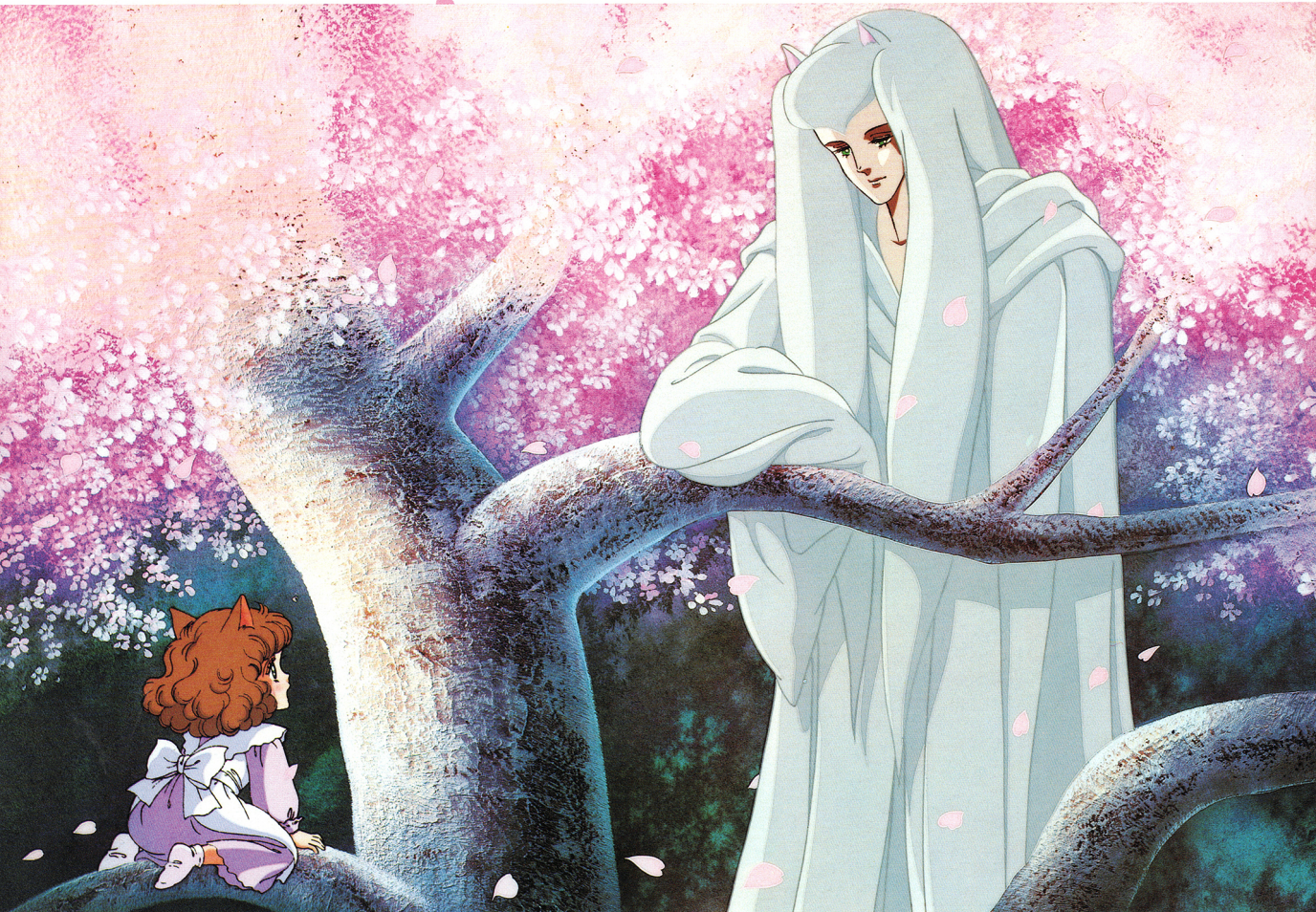


Un Blanc Jour d'un Chaton



原作／大島弓子「LALA」白泉社刊
監督／辻 伸一・プロデューサー／原屋雅男
テーマ音楽／リチャード・クレイターマン
脚本／辻 真先：大島弓子
キャラクター・デザイン：作画監督／青嶋克己・美術監督／吉原一輔
企画：製作／虫プロダクション
〈カラー作品〉日本ヘラルド映画
〈スペースオペラ・アニメーション〉

大島弓子の幻の名作が美しい色彩と優しいメロディーに包まれて待望のアニメーション映画になりました。

綿の国星

わたのくにほし

この子ネコの子、コネコちび猫。

猫は人間になれないの？



綿の国星

〈挿入歌〉●Let's have Sandwiches 作詩/大島弓子 作曲/田中弥生 編曲/萩田光雄 歌/富永みーな ●鳥は鳥に 作詩/大島弓子・谷山浩子 作曲/谷山浩子 編曲/萩田光雄 歌/遠藤優子 〈エンディング・テーマ〉●ブルー・ハート 作詩/来生えつこ 作曲/田中弥生 編曲/萩田光雄 歌/遠藤優子

●登場人物

★チビ猫/生後2ヶ月のメス猫。行き倒れのところを時夫に救われる。真白な猫で将来はよほどの美猫になると思われ、ラフィエルという猫界の大物に愛されるが、いつか自分は変身して人間になると信じており、時夫の恋人になる日を夢みている。

★ラフィエル/銀の毛並みに緑の目を持つ絶世の美青年猫。秘密の竹藪に住む。チビ猫に、猫は人間になれないことを説き、綿の国の夢物語をきかせる。猫だけの御伽の国綿の国。そこにはホワイトフィールドというお姫様が住んでいるという。ラフィエルにとってホワイトフィールドはチビ猫だと告白した翌日、何故か姿を消す。

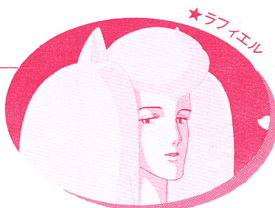
★須和野時夫/チビ猫を拾う浪人生。高校生活3年間を暗黒にして挑んだ大学受験を風邪の為にバアにできてしまったからノイローゼ気味。時々妙なことを口走る。例えば、「今なら少年Aですむ」しかし、雨の日にチビ猫を拾ってから明るい。

★時夫のお父さんとお母さん/お父さんは作家。一日中机の前で腕を組んでいる変人。時々チビ猫の足紋を原稿用紙に捺して瞑想にふける。お母さんは極度の猫アレルギー。触っただけで硬直する。でも時夫のことを心配していて、チビ猫に早く慣れようと奮闘している。

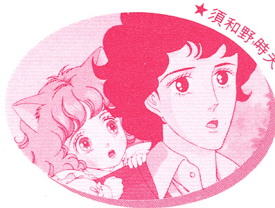
★みつあみ/時夫の恋する美少女。時夫の落ちた大学の一年生で父の意志を継いで法律を勉強する。ひつまみ編みのみつあみがよく似合う。



★チビ猫



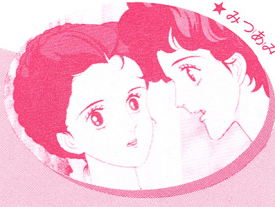
★ラフィエル



★須和野時夫



★お父さんとお母さん



★みつあみ

●解説

ミュージカル「CATS」の嵐が吹きあれる中、ついに映画界にもアニメ版「CATS」とも言うべき作場した。

主人公のチビ猫は生後2ヶ月のメス。人間には二つのタイプがあると信じている。一つは人間の赤ん坊がおとなになって人間になるタイプ。もう一つは、猫がある時変身して人間になるタイプ。そして、自分は今は猫だけれども、いつかは人間に変身することを信じて疑わない。

そういった純粋な少女の視点で広大な宇宙を日常に探ったファンタジーが「綿の国星」だ。原作者の大島弓子は昭和46年「ポーラの涙」でデビュー、48年には「ミモザ館でつかまえて」で日本漫画家協会優秀賞を受賞している人気漫画家。手塚治虫を源流にもつ虫プロダクションは、彼女の持つ鋭い時代性と都会的なウィットによって描かれたやさしさは、アニメーション映画にすることによってこそいきいきと華麗に表現できると考え、アニメーション映画にすることを決定。若手のホープ辻伸一が監督する。更に、音楽をいま最も繊細な才能といえるリチャード・クレイダーマンが担当する。東西の優美な世界が混合するのも楽しみである。この試みは、アニメ史上初めて、ヨーロッパ調の香りに満ちた新しいアニメーションの世界を構築するものとして大きな期待が寄せられている。

●物語

どしゃぶりの雨の日、ノイローゼ気味の浪人生須和野時夫は、行き倒れの猫を拾った。時夫はその真白な小さな猫にチビ猫という名をつけ、つきっきりで看病した。

時夫のお母さんは、大の猫嫌い。ちょっと触れただけで硬直状態になり熱が出る。しかし時夫のノイローゼが治るのならと、お母さんは必死の覚悟で飼うことを許してくれる。

予備校をサボタージュして時夫はチビ猫を公園につれていく。緑の樹々、氾濫する光、小鳥のさえずり。時夫の横に寝ころぶチビ猫は幸せいっぱい。

帰り道、時夫は美少女美津子(みつあみ)に会う。時夫は彼女に恋している様子。チビ猫の心は動転した。チビ猫は、人間には二通りあると思っている。一つは人間の赤ん坊からおとなになる場合。もう一つは、猫がある時変身して人間になる場合。そして自分はいつか人間になって時夫の恋人になると……。

みつあみが時夫をとってしまう前に人間になろうと決心したチビ猫は、「早く人間になれ」と念じながら満開の桜の木から飛びおりた。「そんなことをしても猫は人間にはなれない」突然声がする。桜の枝には、銀の毛並みに緑の目をしたこの世のものとは思われぬ美しい猫ラフィエルが月の光を浴びていた。彼は綿の国の夢物語を語った。綿の国とは、身も心も沈み込むような一面の真綿の原の国。そこにはホワイトフィールドという美しい猫のお姫様がいて、辿り着いた者にやさしくキスしてくれるという。そして彼は、チビ猫が彼にとってのホワイトフィールドで、一緒に旅に出ようと愛の告白をする。

翌日、人間になるのは不可能だと悟ったチビ猫は、須和野家を出た。悲しい心のままラフィエルの住む竹藪へ急ぐ。しかし最早そこには彼の姿はなかった。チビ猫は、ラフィエルを求めてさまよう。

一方、須和野家では、いなくなったチビ猫に大騒ぎ。どんなことをしてでも探し出すと誓うお母さん。

闇の中、ふりしきる雨。チビ猫はいつの間にかあの竹藪に戻っていた。ラフィエル! 叫ぶチビ猫。その時葉陰で音がした。ふり向くと、手にミトンの手袋をはめ頭巾を被ったお母さんがいる。こわごわチビ猫に近づくとお母さん。手袋をとり素手でチビ猫を抱きしめた。チビ猫はお母さんにしがみついた時、お母さんの涙の味を知った。